

医療・衛生用品アクセス調査

445人の若者の声を集めました

本アンケートのサマリー



- ・必要な医療を受けられなかった若者が多く存在する

過去1年間に受診・治療が必要な病気やけがを経験した人のうち、52.5%が「受診・治療をしなかったことがある」と回答。

- ・受診・治療しなかった最大の理由は経済的負担

過去1年間に未受診を経験した理由として、62.0%が「支払いが難しかった」と回答。経済的理由による未受診の割合は、13～17歳と比べ18歳以上の回答者で高かった。

- ・医療アクセスの障壁は、お金だけではなく「保護者との関係」にも

保護者との関係により、受診を止められる、保険証等を使わせてもらえない、症状を軽視される、予約・付き添いを得られない、怒られそうと言えない、知られたくなくて言えない、といった経験が確認された。

- ・保護者関連の受診障壁は性・生殖医療に限らない

これまでに何らかの保護者関連の受診障壁を経験した割合は、身体45.8%、こころ49.7%、性・生殖23.1%。「若者の医療アクセス＝性の問題」だけではなく、身体・精神医療にも広がっている。また、からだ・こころで最も多いのは不機嫌・病状軽視などの間接的な受診障壁で、性では「言えなかった」などの受診希望表明の抑制が最も多かった。

※本調査はユキサキチャット利用者とミット利用者に実施しており、若者一般の傾向と言い切れませんが、困窮している若者の実態の1つとして捉えていただければと思います。

概要・目的

当調査は認定NPO法人D×P（ディーピー）が運営するオンライン相談「ユキサキチャット」を利用する若者に対するアンケート調査である。

調査対象

認定NPO法人D×Pが運営するLINE相談
「ユキサキチャット」「AI相談ミット」利用者のうち13～25歳
(※相談利用は25歳までだが、26歳以上でLINEをブロックしていないユキサキチャットの登録者を含みます)

回答者数

13～25歳11039人を対象に配信し、445人が回答(うち年齢非回答31人)
回答率4.0%

アンケート期間

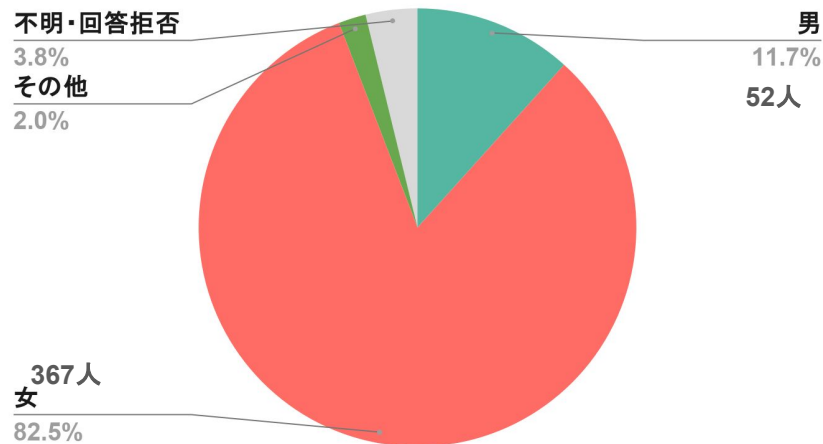
2026年8月18日から2026年9月2日

基本情報：回答者445人の属性

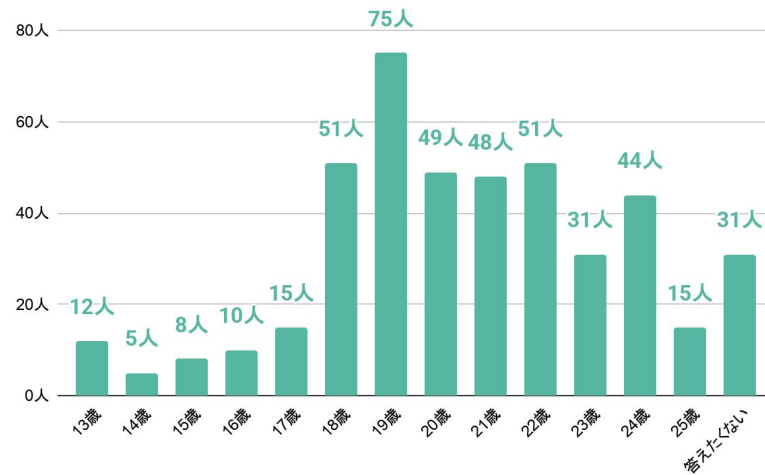


- ・平均年齢は20.2歳（※答えたくないと回答した31人を除く。n=414）
- ・回答者のうち「女性」82.5%、「男性」11.7%、「その他・わからない・答えたくない」5.8%。

性別



年齢

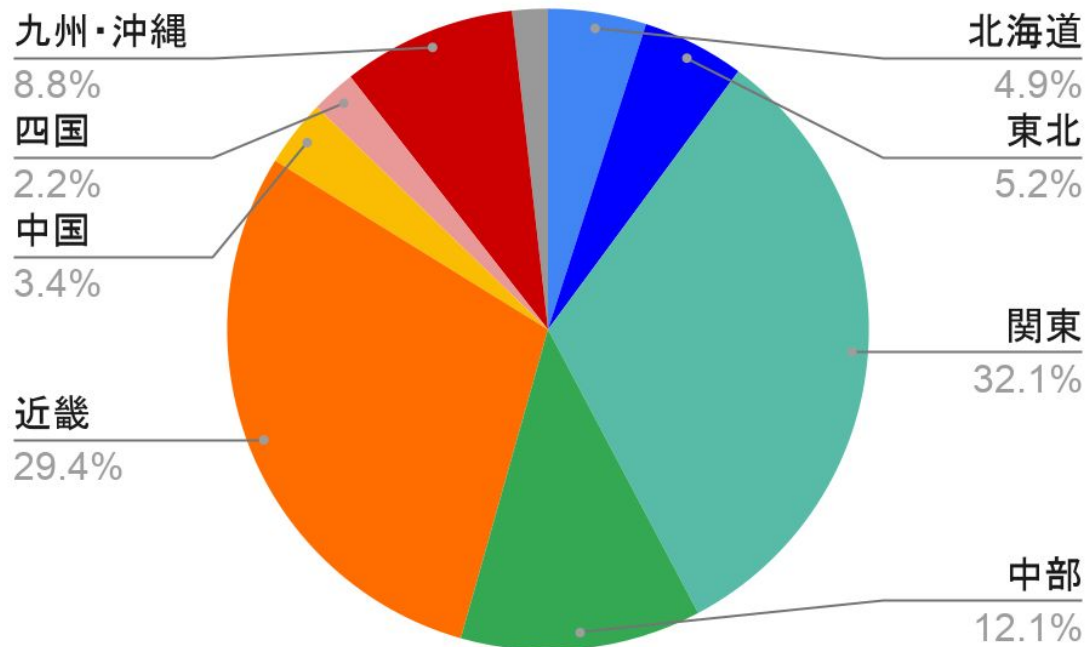


参考：アンケート配信時のユキサキチャット・ミットの男女比はおおよそ 2:7となる。

基本情報：住んでいる都道府県 (n=445)



北海道から沖縄まで回答があるが、日本全体の人口構成比と比較すると関東と近畿圏の回答者が多い。

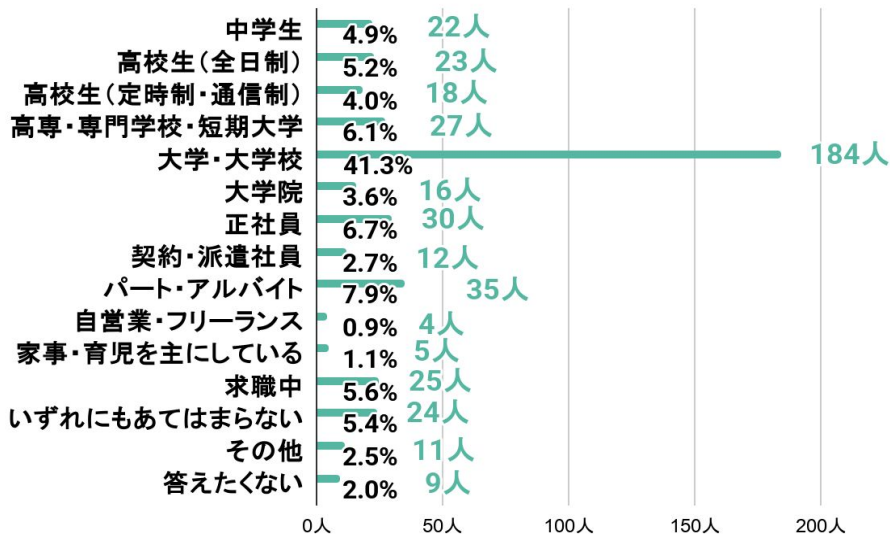


基本情報：所属と居住形態 (n=445)

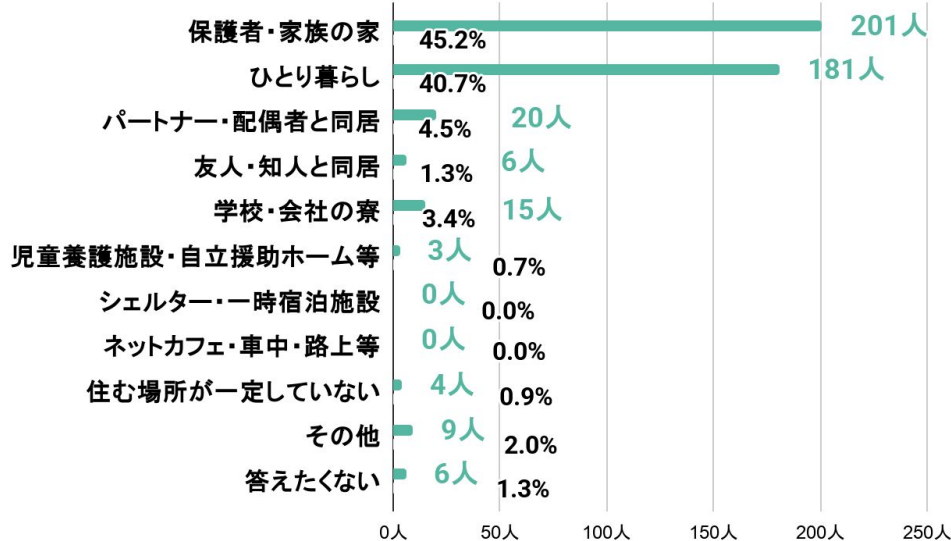


大学生が最多で、短大・専門や大学院を含むと51%が高等教育を現在受けている最中である。
全体の40.7%がひとり暮らし、45.2%が保護者と同居という結果となった。

Q.あなたの所属をおしえてください



Q.あなたの居住形態を教えてください。

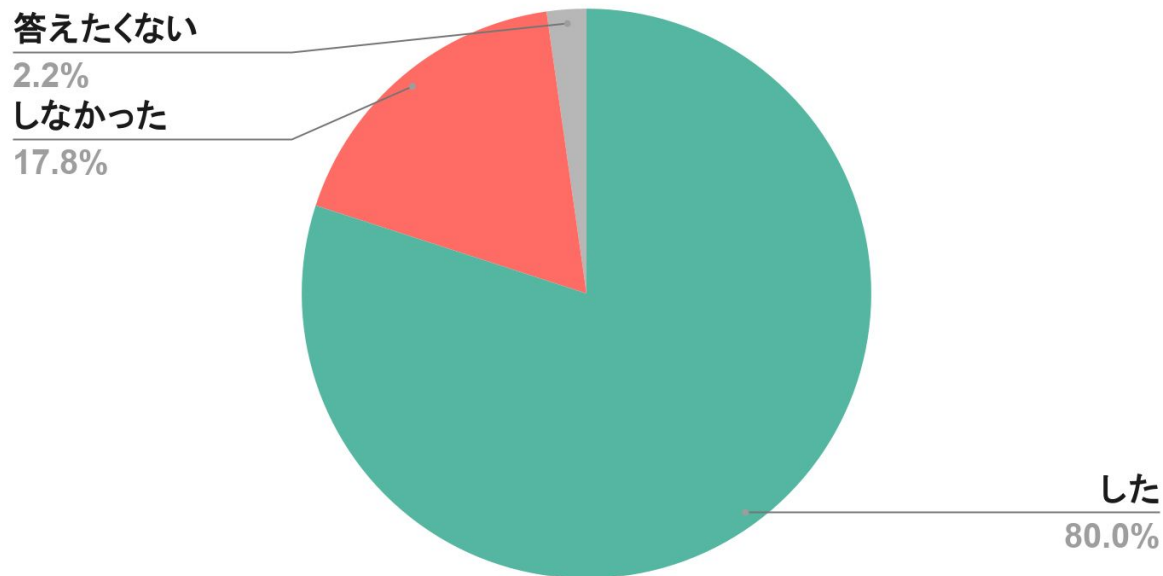


過去1年間の病気・ケガの経験 (n=445)



全体の80%が過去1年間で、「受診・治療が必要と思われるほどの病気やケガをした」と回答。

Q.あなたは、過去1年間に、病院や診療所での受診や治療が必要と思われるほどの病気やケガをしましたか。
※こころの不調、歯や目のことも含みます

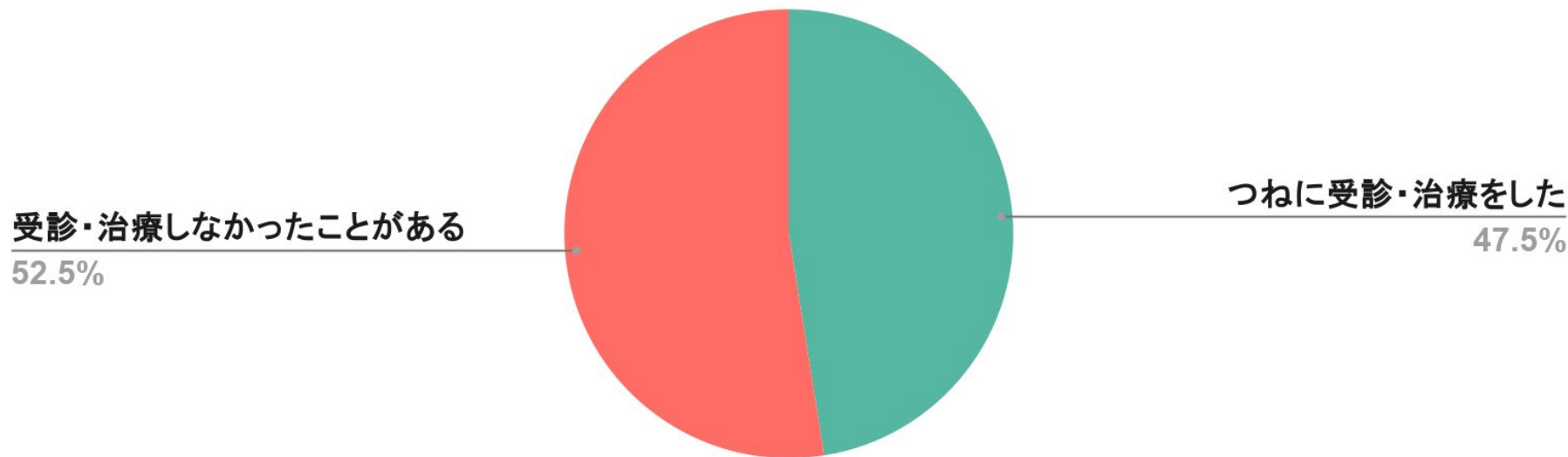


必要な受診・治療をしなかった者の割合 (n=356)



「受診・治療が必要と思われるほどの病気やケガをした」と回答した人のうち、半数以上が、「受診・治療をしなかった」経験がある。

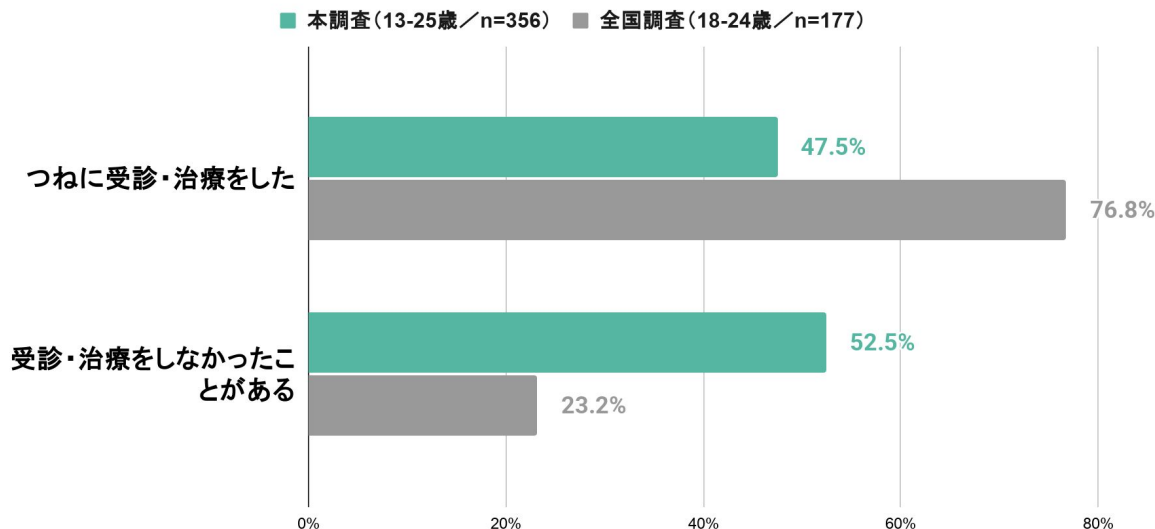
Q.前の質問で「した」方のみお答えください。その際、実際に病院や診療所を受診し、治療を受けましたか。



参考：必要な受診・治療をしなかった者の割合／2022年全国調査との比較



調査年、対象年齢、対象者の募集方法等が異なるため単純比較はできないが、参考として割合を並べると、「受診・治療をしなかったことがある」と回答した割合は、全国調査の23.2%に対し、本調査では52.5%であった。（※）



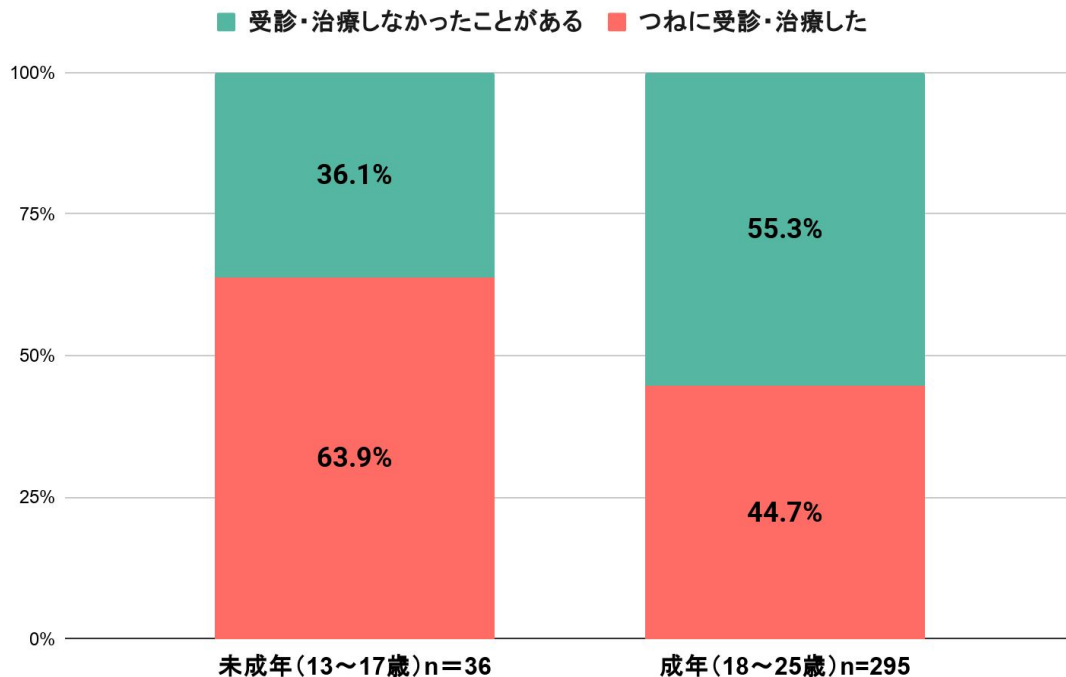
※全国調査は、「2022年生活と支え合いに関する調査 図表XV-5 性・年齢階級別受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかった者の割合より18～24歳のデータを引用・集計。

※本調査は13～25歳、全国調査は18～24歳を対象としている。

クロス集計：「年齢」と「必要な受診・治療をしなかった者の割合」



受診・治療が必要な病気やケガを経験した人のうち、受診・治療をしなかった経験がある割合は、未成年36.1%、成人55.3%で、成人の方が19.2ポイント高かった。

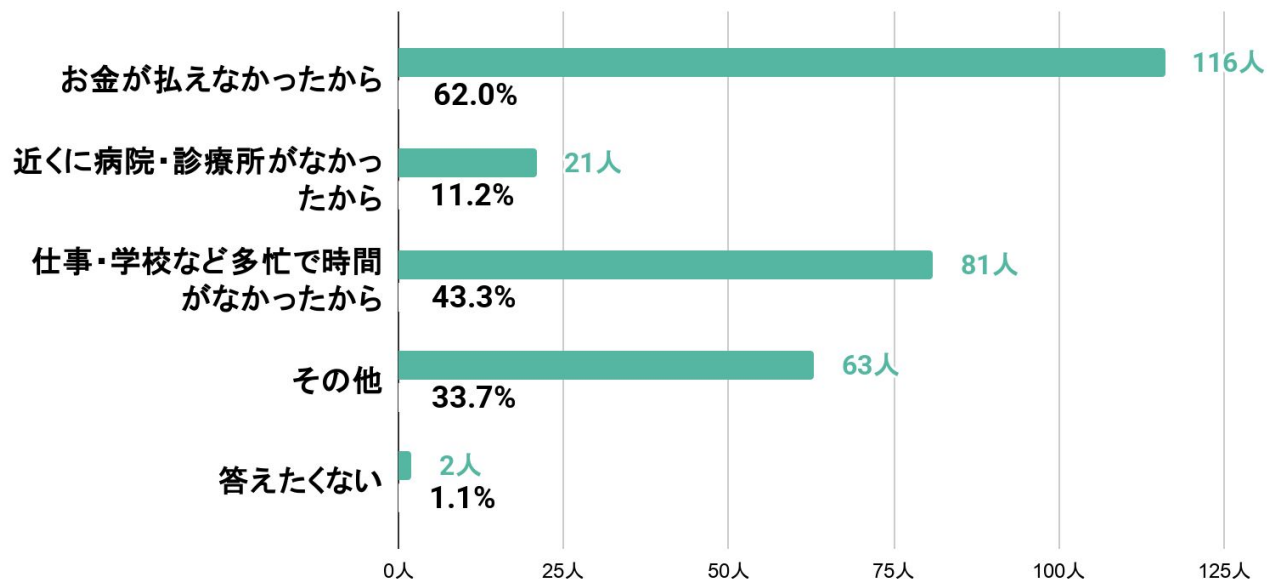


受診・治療しなかった理由 (n=187) ※複数回答



受診・治療をしなかった理由として、経済的な理由が62.0%と最も多かった。一方、仕事や学校などで「時間がなかった」も43.3%にのぼった。

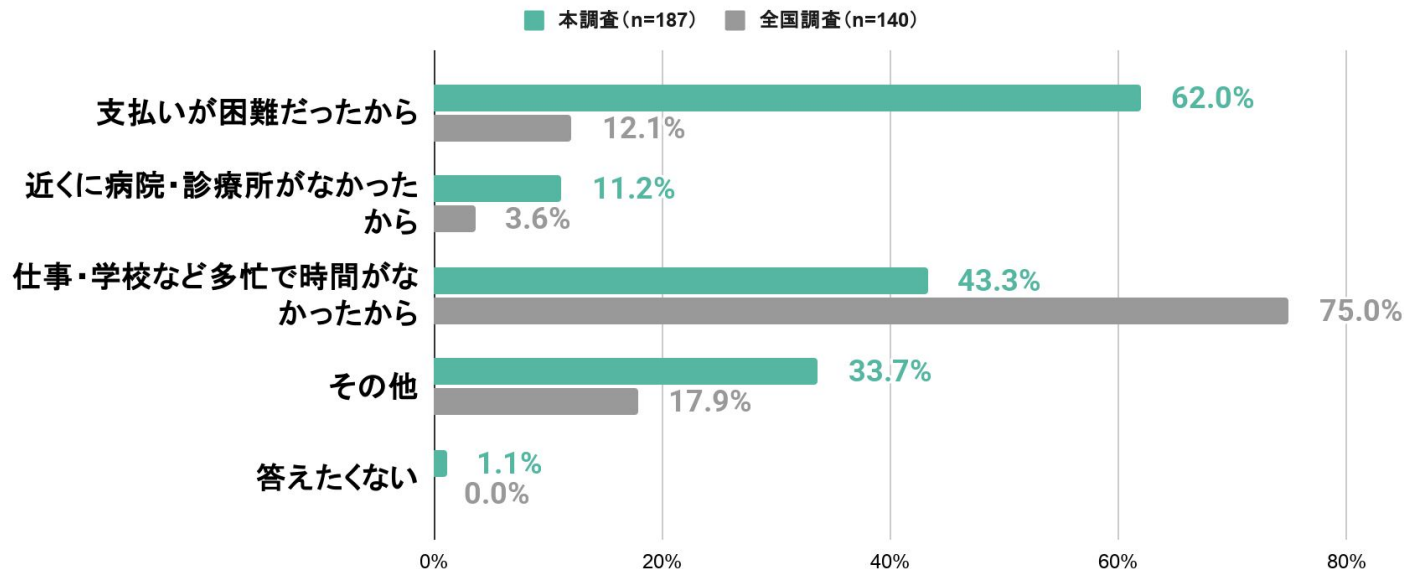
Q.前の質問で「受診・治療をしなかったことがある」方のみお答えください。その理由は何ですか？すべて選んでください。



参考：受診・治療しなかった理由／2012年全国調査との比較 ※複数回答



調査年、対象年齢、対象者の募集方法等が異なるため単純比較はできないが、参考として割合を並べると、本調査では未受診理由として経済的な要因を挙げる割合が高く、全国調査では時間的な制約を挙げる割合が高い。

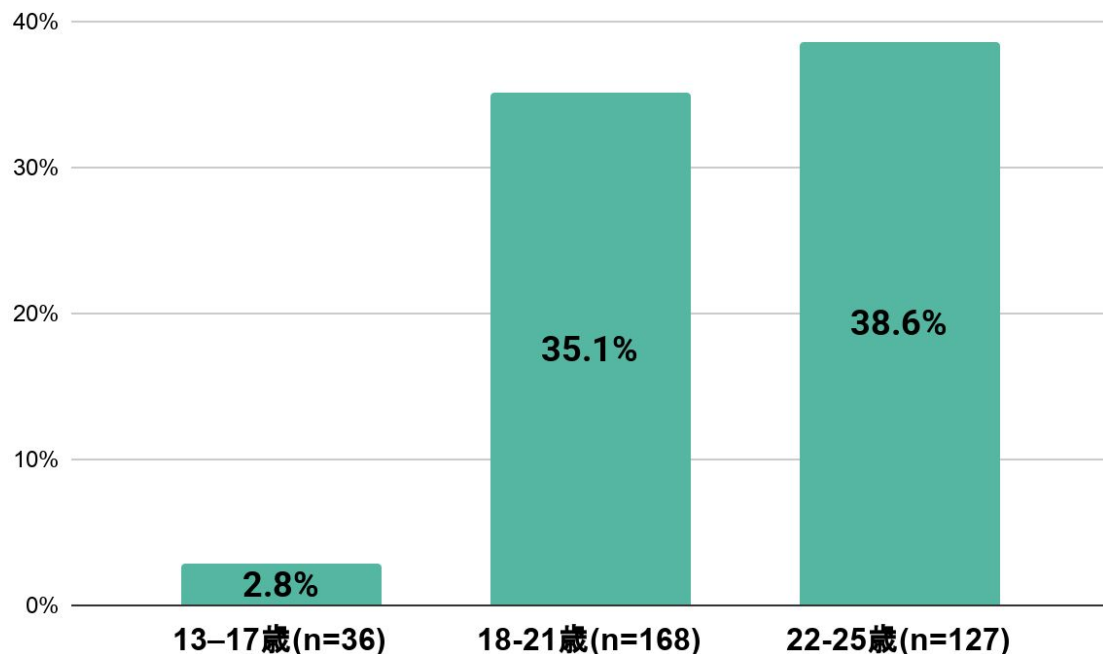


※全国調査は「2012年生活と支え合いに関する調査」より20～24歳のデータを引用・集計。全国調査は無回答1人を除外してn=140として算出。本調査は13～25歳、全国調査は20～24歳が対象。全国調査には「身体上の理由で通院が困難」という本調査にない選択肢があるため、比較対象から除外。また「支払いが困難だった」は、全国調査の「公的医療保険に未加入で支払いできず」「公的医療保険に加入していたが支払いできず」の2項目を合算して算出。全国調査・本調査ともに複数回答。

クロス集計：「年齢」と「支払い困難で必要な受診・治療をしなかった者の割合」



受診・治療が必要な病気やケガを経験した人のうち、経済的理由で未受診だった割合は、13～17歳では2.8%、18～21歳では35.1%、22～25歳では38.6%。成人の回答者で高い割合がみられた。

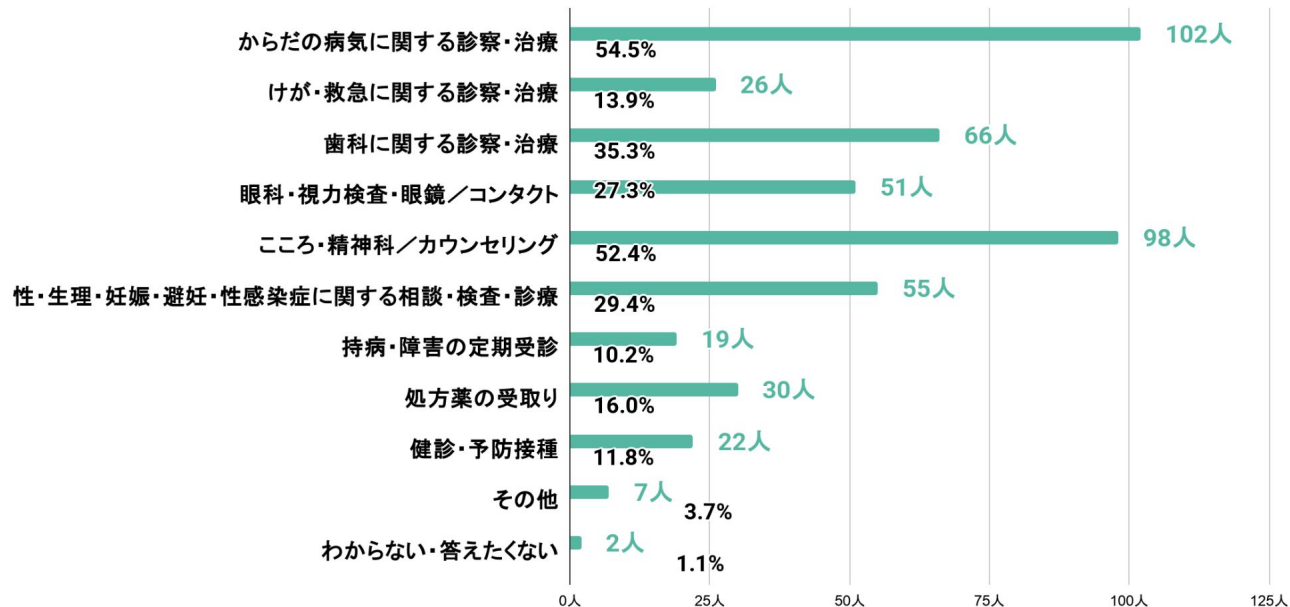


受診・治療をしなかったり、遅れた診察・相談等の種類 (n=187) ※複数回答



受診・治療をしなかったり、遅れた診察・相談は、こころ・精神科／カウンセリングと身体疾患で50%を超えた。

Q 前の質問で「受診・治療をしなかったことがある」方のみお答えください。受けられなかった、または遅れた診察・相談等は何の種類でしたか。あてはまるものをすべて選んでください。

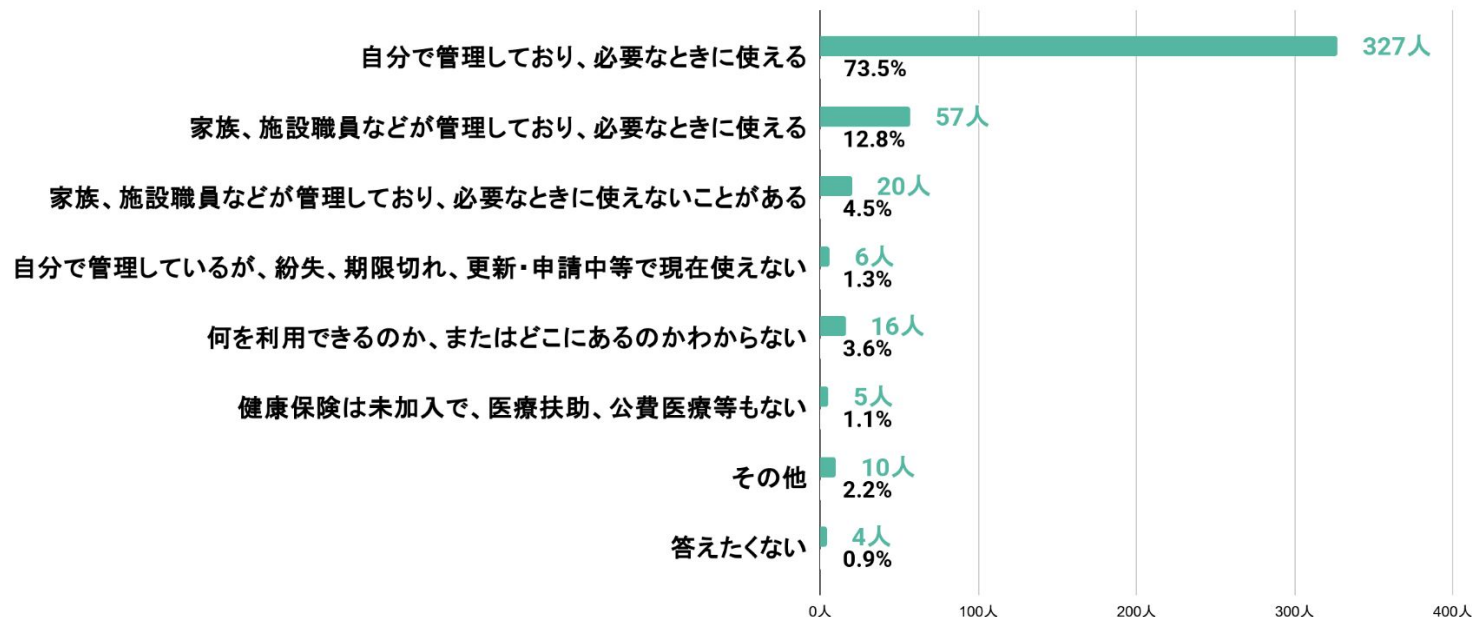


病院受診書類は、必要な時に使えるか (n=445)



86.3%が必要なときに使用できると回答。一方で、10人に1人（10.5%）が「使えないことがある・現在使えない・わからない・健康保険未加入」を選択している。

Q.病院を受診するときに必要なもの（マイナ保険証、資格確認書、生活保護の医療券・医療扶助、公費医療の受給者証など）は、必要なときに使えますか？

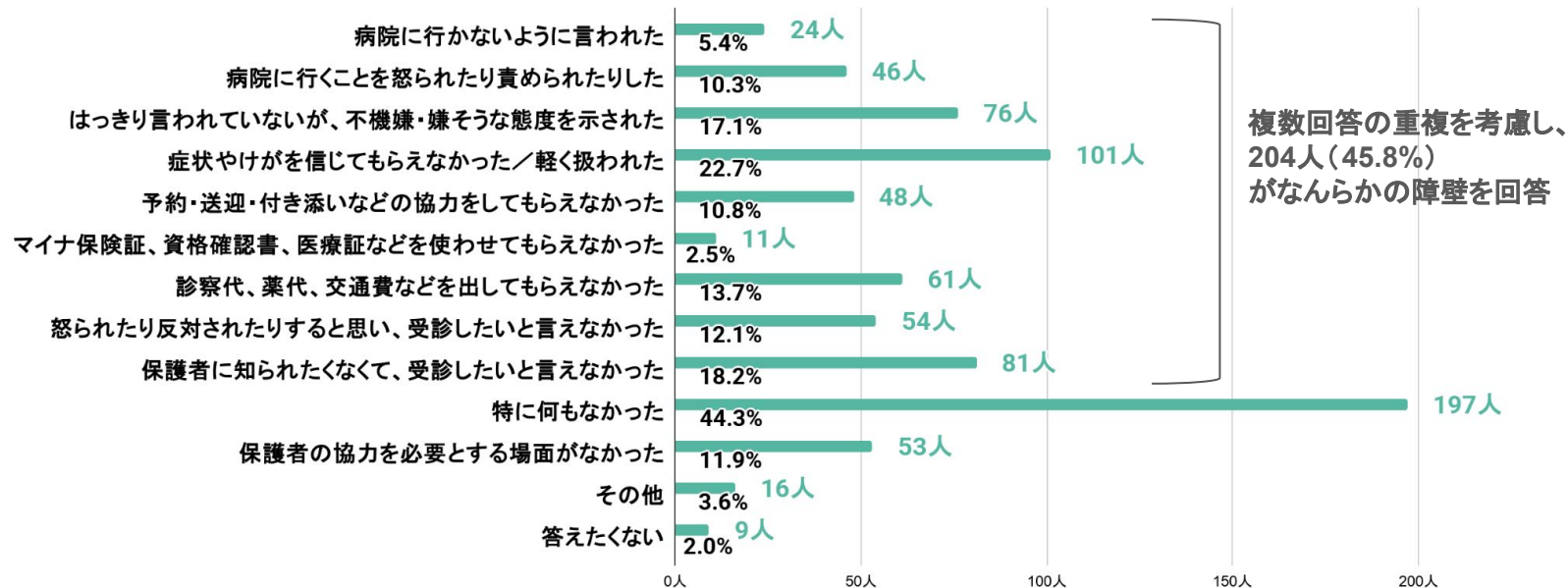


「からだの病気やけが」の受診における保護者との関係性 (n=445) ※複数回答



45.8%が保護者との関係性において「からだの病気やけが」受診への障壁を回答。最も多かったのは、「病気等を信じてもらえなかった／軽く扱われた」であり、2番目に「保護者に知られたくなくて受診したいと言えなかった」であった。

Q.これまで、「からだの病気やけが」で医療機関を受診したかったとき、保護者との関係で、次のようなことはありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

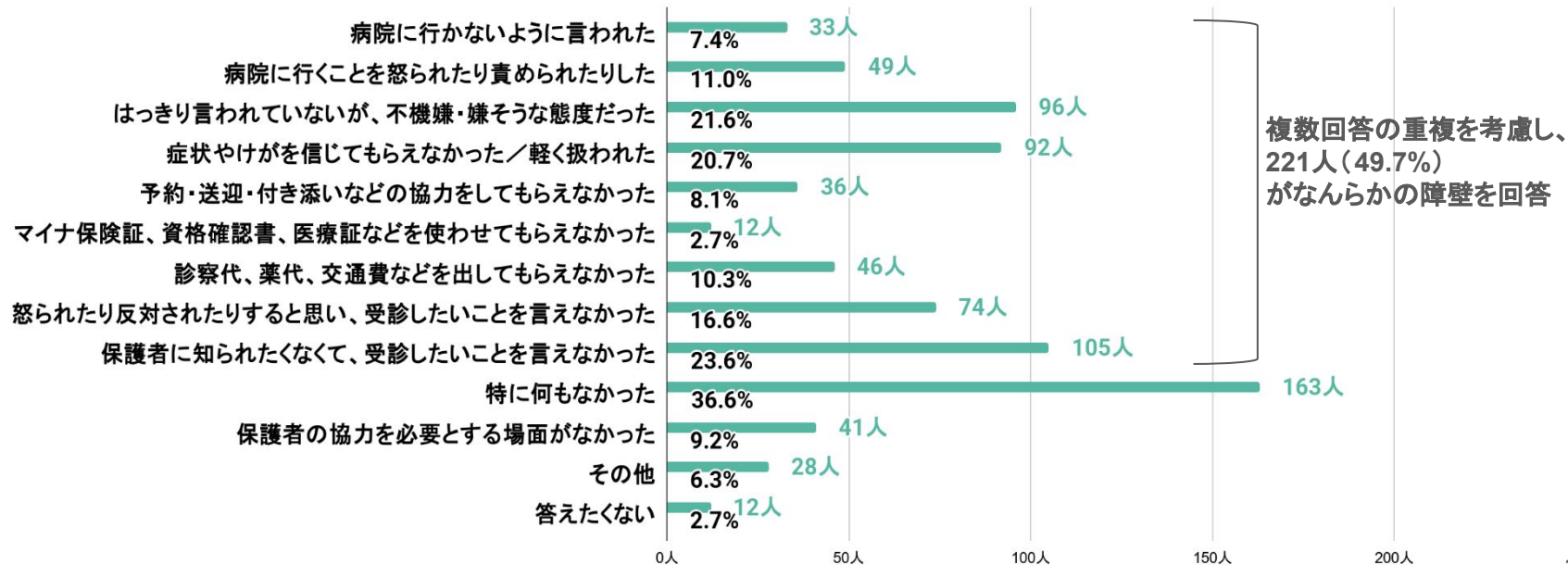


※複数回答で「特に何もなかった・保護者の協力を必要とする場面がなかった」を選んだ場合も、障壁項目を1つ以上選択していれば「障壁あり」として集計した。

「こころの病気・不安」の受診における保護者との関係性 (n=445) ※複数回答

49.7%が保護者との関係性において「こころの病気・不安」受診への障壁を回答。最も多かったのは、「保護者に知られたくなくて受診したいと言えなかった」であり、「不機嫌・嫌そうな態度」「病気等を信じてもらえなかった／軽く扱われた」が続いた。

Q.これまで、「こころの病気・不安・カウンセリング」で精神科や心療内科を受診したかったとき、保護者との関係で、次のようなことはありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。



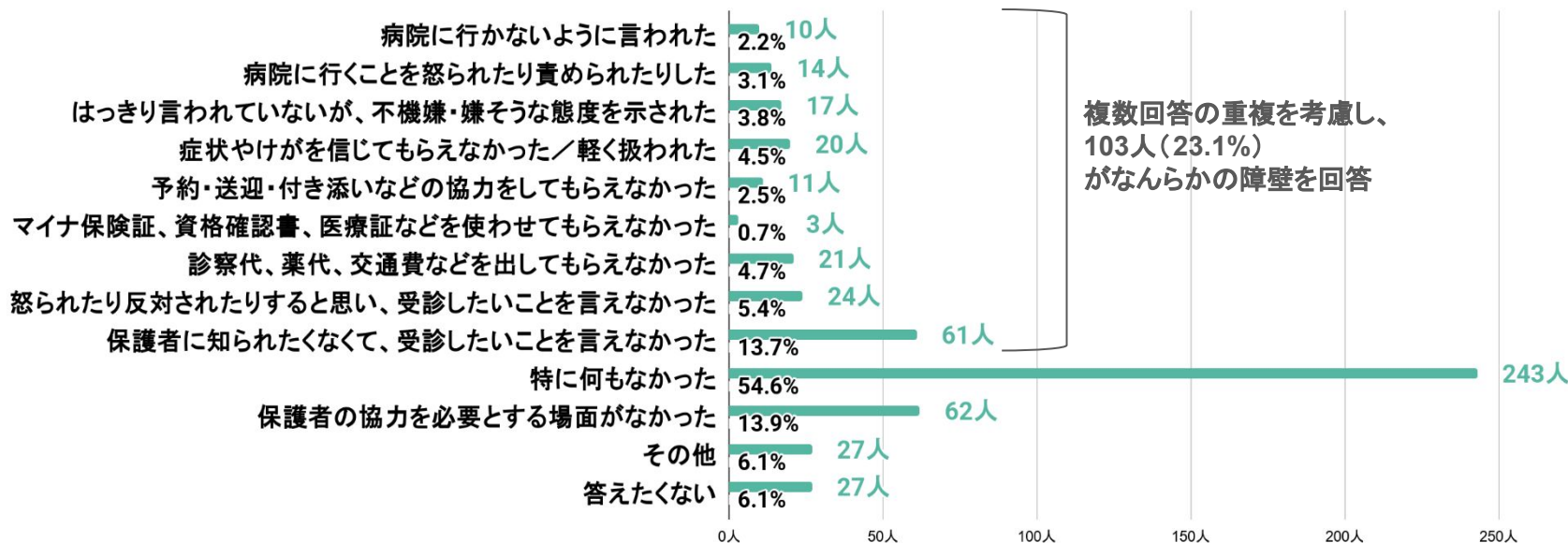
※複数回答で「特に何もなかった・保護者の協力を必要とする場面がなかった」を選んだ場合も、障壁項目を1つ以上選択していれば「障壁あり」として集計した。

「性に関する病気・不安」の受診における保護者との関係性 (n=445) ※複数回答



23.1%が保護者との関係性において「性に関する病気や不安」受診への障壁を回答。最も多かったのは、「保護者に知られたくなくて受診したいと言えなかった」である。

Q.これまで、「性に関する病気や不安(性器の症状、性感染症、避妊、妊娠の可能性など)」で医療機関を受診したかったとき、保護者との関係で、次のようなことはありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

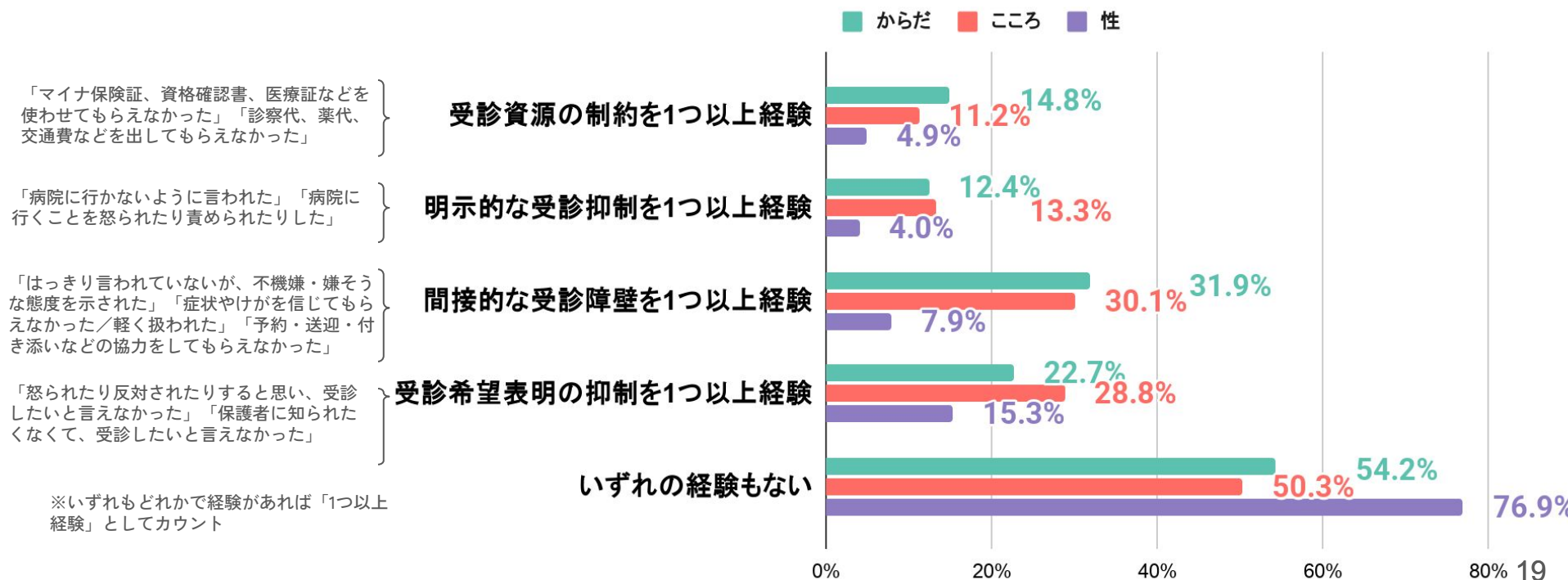


※複数回答で「特に何もなかった・保護者の協力を必要とする場面がなかった」を選んだ場合も、障壁項目を1つ以上選択していれば「障壁あり」として集計した。

病気のカテゴリ別：保護者との関係性における受診障壁の分類 (n=445) ※複数回答



回答者全体で見ると、からだ・こころで最も多いのは不機嫌・病状軽視などの間接的な受診障壁であった。性では「言えなかった」などの受診希望表明の抑制が最も多かった。「受診資源の制約」「明示的な受診抑制」もからだ・こころそれぞれで10%以上を示している。

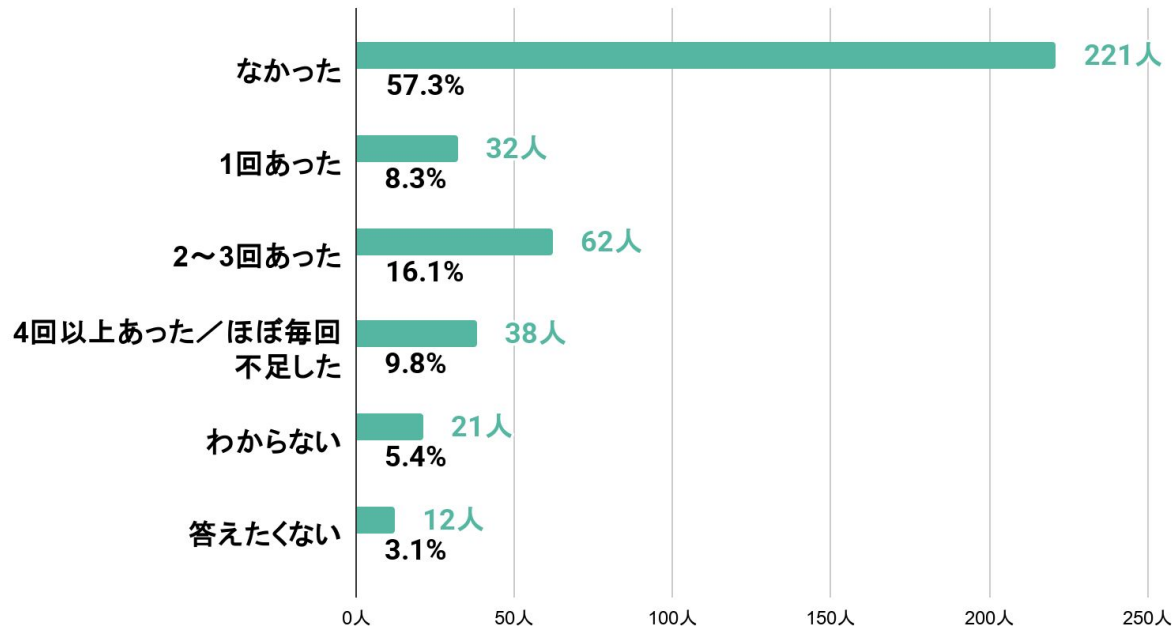


経済的な理由で生理用品を十分に用意できなかった経験 (n=386)



当該設問に回答した人の34.2%が、この1年間に「生理用品を買えない・また希望する種類・枚数を用意できない」経験があった。

Q.生理がある方のみお答えください。この1年間に、お金が足りないため、必要な生理用品を買えなかった、または希望する種類・枚数を用意できなかったことはありますか。

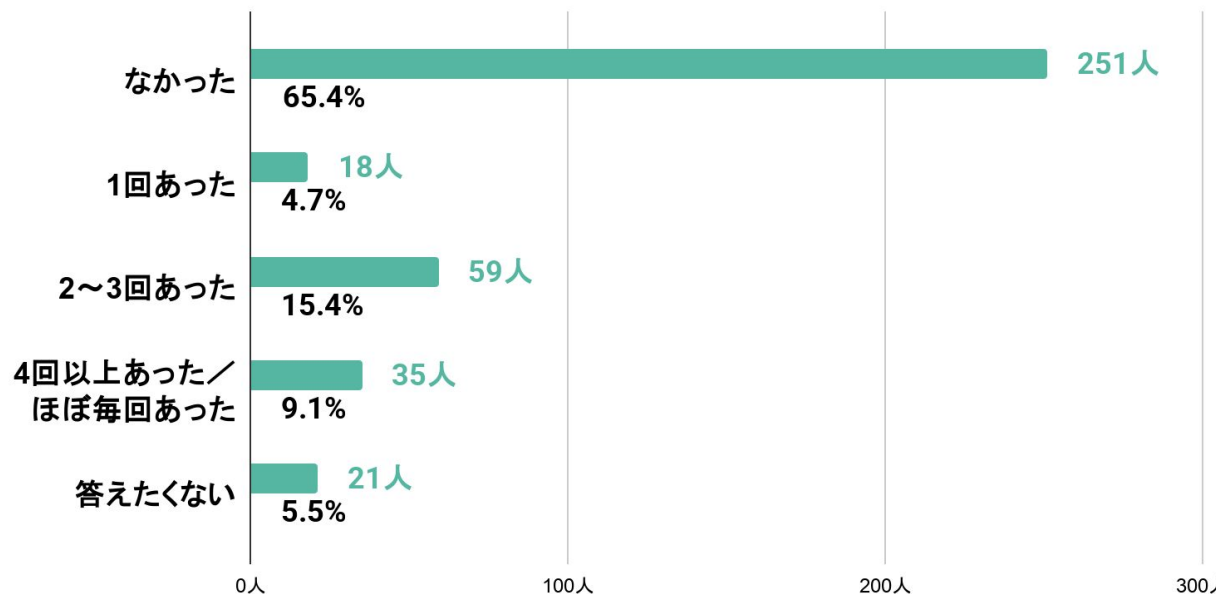


生理用品の不足により、学校・仕事・外出等を控えた経験 (n=384)



当該設問に回答した人の29.2%が、この1年間に「生理用品の不足により学校・仕事・外出・行事への参加を控えた」経験があった。

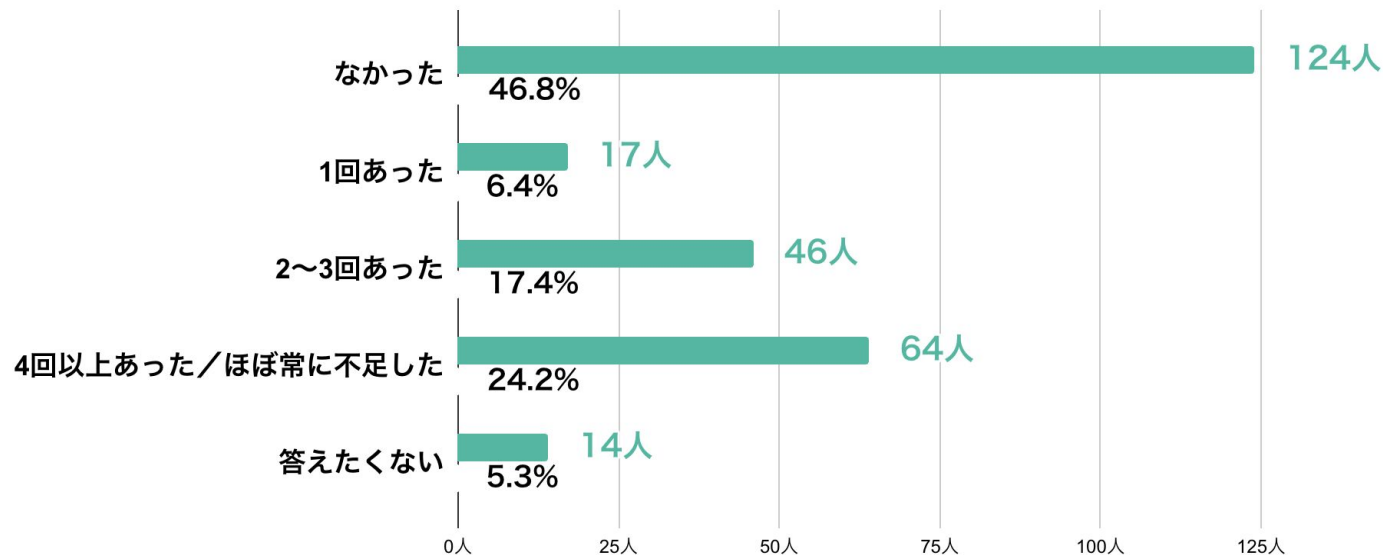
Q.生理がある方のみお答えください。この1年間に、生理用品の不足によって、学校・仕事・外出・行事への参加を控えたことはありますか。



経済的な理由でコンタクトレンズを十分に用意できなかった経験 (n=445)

「コンタクトは必要としていない・使用していない」回答者を除く265人のうち、この1年間にお金がい
ず用意できなかった経験が1回以上ある人は47.9%であった。

Q.この1年間に、お金が足りないため、コンタクトレンズを買えなかった、または希望する種類・量を用意できなかったことはありますか。
(ファッションのためのカラーコンタクトはのぞく)

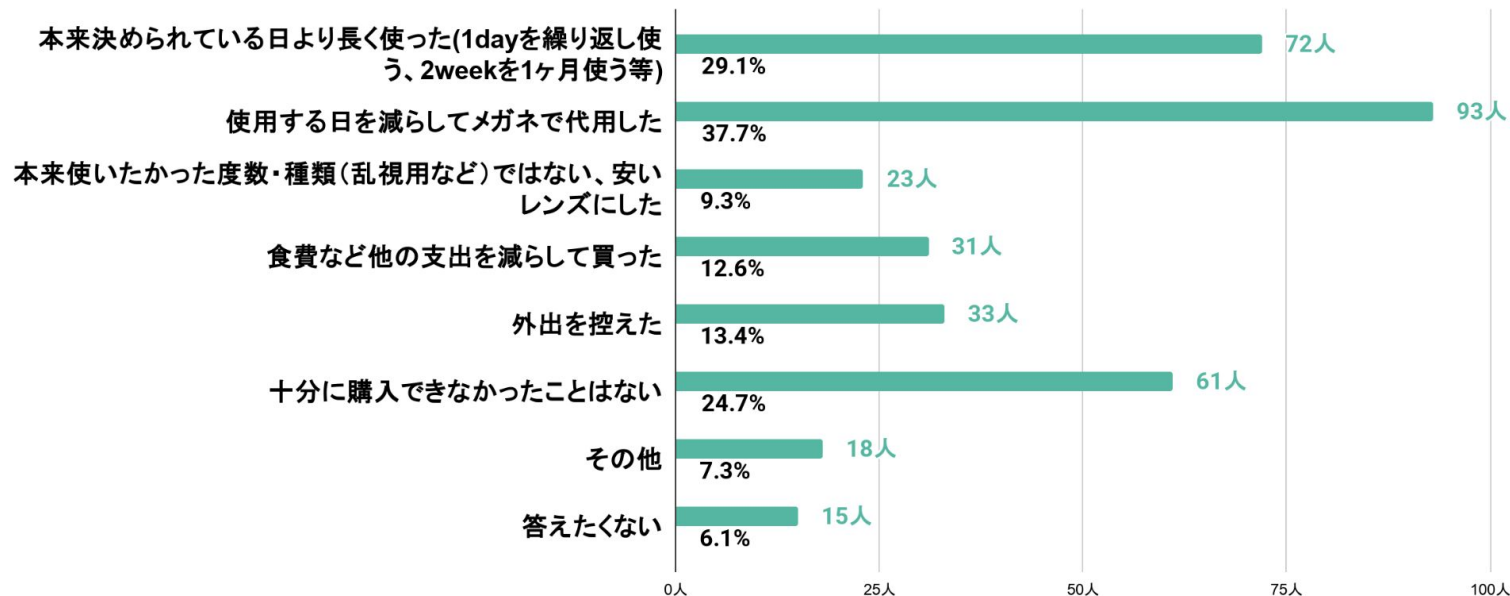


経済的な理由でコンタクトレンズが不足した際の行動 (n=247) ※複数回答



「コンタクトは必要としていない・使用していない」回答者を除く247人のうち、37.7%がメガネで代用した経験、29.1%が本来より長期間使用した経験を回答した。

Q.お金が足りないため、コンタクトレンズが足りないときにしたことをすべて選んでください。
(ファッションのためのカラーコンタクトはのぞく)



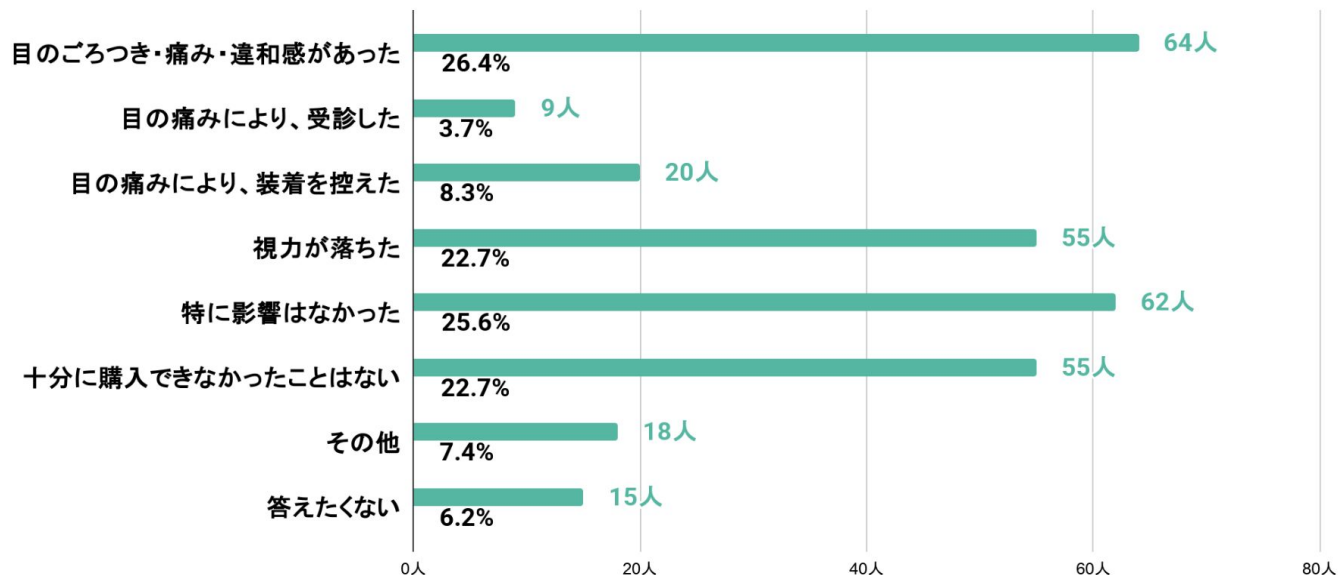
※各設問で「コンタクトは必要としていない・使用していない」と回答した人を除外して集計しているため、次頁とn数が異なる。

コンタクトレンズ不足による影響 (n=242) ※複数回答



この1年間にコンタクトレンズの不足により、約4人に1人（26.4%）が目のごろつき・痛み・違和感があったと回答。「視力が落ちた」という回答は22.7%であった。

Q.この1年間に、コンタクトレンズの不足によって、次のことがありましたか。すべて選んでください。（ファッションのためのカラーコンタクトはのぞく）



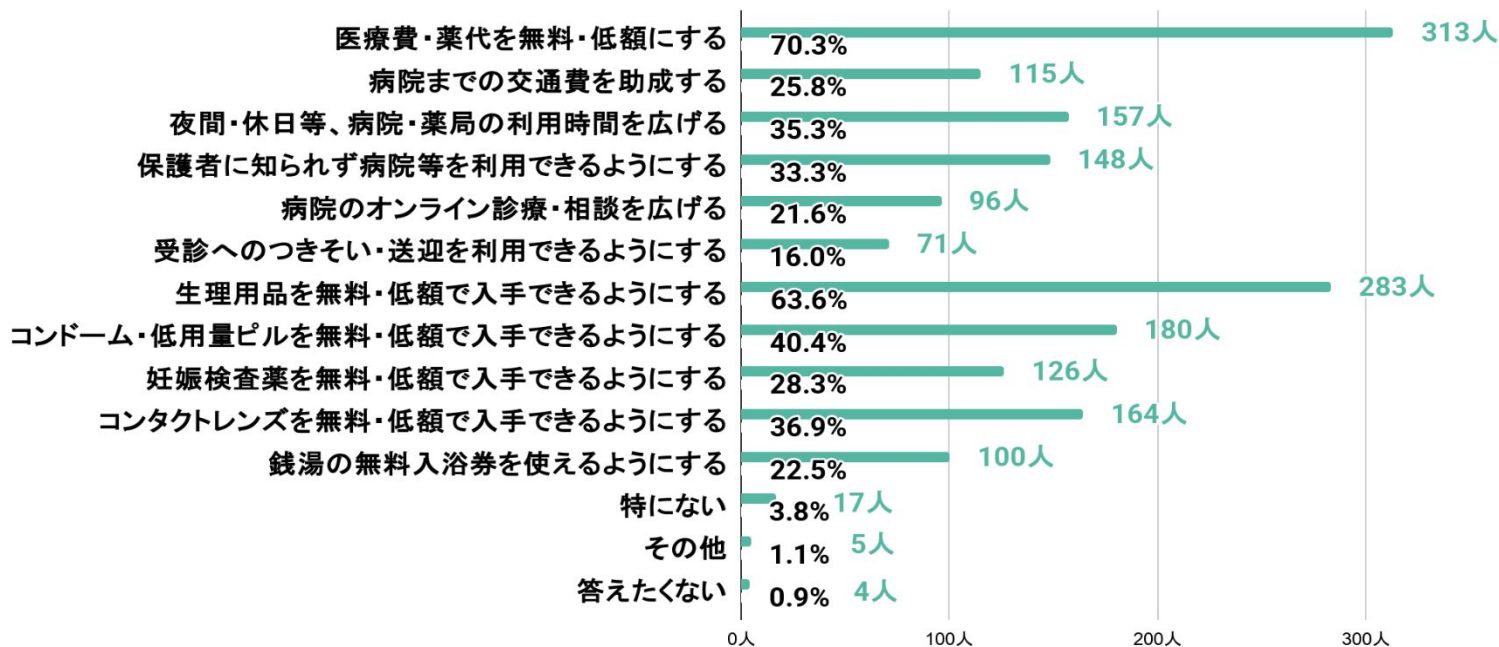
※各設問で「コンタクトは必要としていない・使用していない」と回答した人を除外して集計しているため、前頁とn数が異なる。

医療・衛生用品の利用のために改善してほしいこと (n=445) ※複数回答



「医療費・薬代」70.3%、「生理用品」63.6%、「コンドーム・低用量ピル」40.4%など無料・低額化についての回答が見られた。一方、3人に1人（33.3%）が「保護者に知られず病院等を利用できるようにする」と回答した。

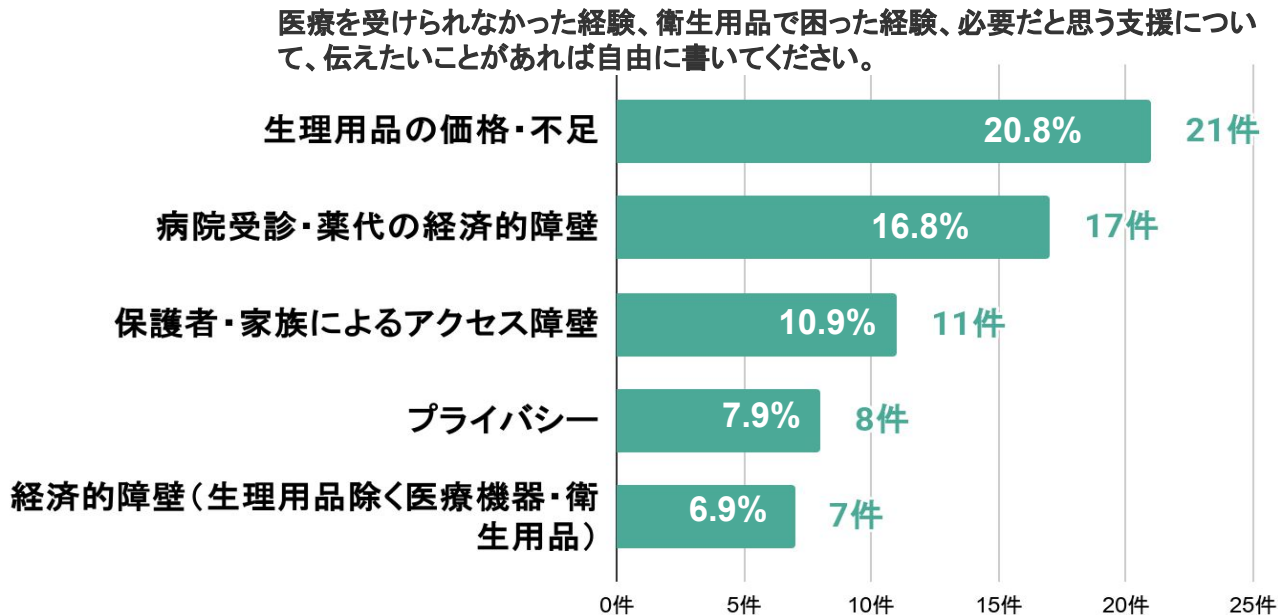
Q.医療や衛生用品を使いやすくするため、改善してほしいことをすべて選んでください。



自由記述101件から見た主な課題



身近な衛生用品である生理用品の価格・不足への声が最も多かった。2番目に多かったのが、病院診察・薬代の経済的障壁に関するコメントであった。



※表外の課題項目は、分類困難7件／家庭環境・家庭内の安全に関する課題 6件／付き添い・第三者接続ニーズ 6件／心理的障壁・偏見5件／医療提供体制 4件／情報不足 3件／学校・仕事 2件／ジェンダー 2件／性・生殖医療1件／制度・手続き上の障壁 1件。自由記述108件のうち、実質的に記述のあった101件を、記述の中心となる主訴ごとに1回答ごとに1つの課題に分類した。

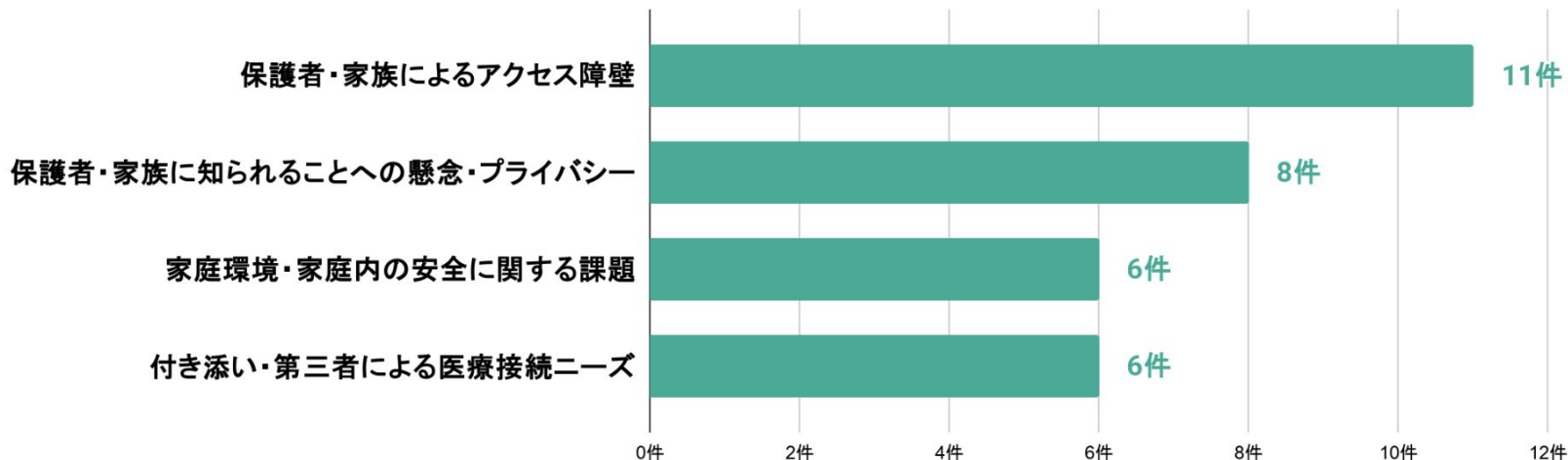
- 回数を追う毎に生理が重くなっていっているため低用量ピルがほしいがお金がないから病院に行けない 低額で買えるようになってほしい（10代後半・女性）
- パートナーと行為中に避妊に失敗しましたがアフターピル代が払えなくて、飲みたかったけど飲めませんでした。毎月の固定費を増やすことが怖くて、精神科に定期的にかかる必要がありましたが、受診を辞めました。お金のかからない自傷行為をして心を安定させています。まともに働けない私が悪いので仕方ありません。悔しいし痛いけど心の底から私が悪いと思っています。（20代前半・女性）
- お金がないとまあ耐えられるし...と病院に行かず放置しがちです。3割負担でも結局診察、薬代があると高くなるし、初診の場合は初診料も取られるしでなかなか行きにくいです。特に今色々なものが高くなっているので余計にお金がなく行けないです。本当にやばい死ぬかもって時にしか行こうってなれないです。（20代前半・女性）
- 万が一の時、早期発見なら助かるかもしれないのにお金がないから病院に行けないとなって手遅れになる可能性もあり得る現状だと思います。18歳までは町などで医療費免除があるが、年齢で決めるのではなく非課税など所得に応じての免除や割引の支援を追加して欲しいです。お金がないなら働けという意見だってあるけど、私も含めて体調が不安定で安定した職に就きたくてもつけない人もいるので、そういった人に向けて支援してほしいです。（20代前半・女性）
- 親に負担をかけたくなく、生活費（食費）以外をバイト代で賄っているため、少ない手持ちで初診料も含め診察料を出すことを渋った。（20代前半・女性）
- 精神障害の薬や、生理不順でピルを服用しており、常に医療費がかかり、月一万くらいの支出があるのが負担として大きい。受診には積極的になれない。医療費をもっと安くして欲しい。（20代前半・女性）

以下項目4分類に該当した回答者

31件

101件中30.7%

保護者・家族との関係によって受診が難しくなるだけでなく、「知られず受診したい」「家庭が安全でない」「親以外につないでくれる人が必要」という障壁やニーズを、自由記述回答者の3割が記述。





- 心療内科に行きたくて一回母親に相談したが、最初は少し不機嫌そうに予約をしてくれるものの、その後もお願いしてもなかなか連れてってくれずにますます精神が病んだ。一人で病院に行こうとしたが未成年だったので「親に連絡されるかも」というリスクがあって行けなかった。心療内科とかを受診したい未成年のためにも緊急時以外は保護者に連絡しないでほしいです。（年齢非回答・女性）
- 精神科受診をしようと思ったのですが、親の被扶養者として健康保険に入っているので、保険証を使うことにより何かのきっかけで知られてしまったら問いただされて怒られる、と思って中々受診に踏み切れませんでした。また、私は生理が重いため低用量ピルを保険診療として処方していただいているのですが、父から避妊薬だと言われ嫌な顔をされてしまったのを覚えています。（20代前半・女性）
- 親に精神科受診を禁止されていたので自分で病院に通院するまでに時間がかかった。親からの理解を得られなかったのが辛かった。（20代前半・女性）
- 精神科に行きたいけど親に言いたくない（10代前半・女性）
- 保険証を使うとどうしても親にバレてしまうから、保険証なしで1人で行かないといけなくて、医療費も3割負担でなく10割負担で高額になってしまうから、学生時代はそれが辛かった。お薬を飲むこと自体が許されない家だったので市販薬も飲めなかった。保険証を使っても親にバレないとか、そもそも低額で病院に行けるとかの支援があればまだ行けたかも。高熱が出ようが、親に怪我させられ失血死するのは？って思うレベルでも病院に行けないってのが本当に辛かったから。。。 （20代前半・女性）
- 母は学生生活に専念しており収入のない私に対して当たりが強く、養ってもらっているんだからと発言を許してもらえない。今日の朝から片足の骨がズレて痛い、家族に言っても受診を承諾してくれないので我慢している。（10代後半・女性）



- 未成年の時親子関係が荒れてて 病院行くと通知が届くので 心の病院は行けなかった 虐待が発覚するのを恐れて やけどや骨折 頭に穴空いても病院連れて行って貰えなかった 今生きてるから言えるけど 命落とすリスクもあるから 学校から連れて行ってくれたり 怪我させられたりした時に 病院に連れて行ってくれる所があると 良いなって思う 児相や病院 学校って繋がると思う (20代前半・女性)
- 高校生の頃、摂食障害になってしまったことがありました。本気で治したいから精神科に行きたいと何度も相談したものの相手にしてもらえず、一人で行こうとしても保険証を渡してもらえず、逆に怒られ、受診できませんでした。1年が経ち重症化し、学校の先生が親を説得して、ようやく病院に連れて行ってもらえました。もっと早く病院にいけていれば、私の高校生活は普通の子のように勉強と部活が出来たはずなのにと今でも思っています。未成年の医療費を立て替えてもらえたり、助けてくれる大人や、親との間に入ってくれる大人が一人でもいたら違ったなと思います。(20代前半・女性)
- 私は幼少期、ネグレクトのような環境で生活しており、体調が悪くなったり、けがをしたりしても、必要な医療を十分に受けられないことがありました。入浴や洗濯などの衛生面についても十分な環境が整っていませんでした。生理が始まってからも生理用品を買ってもらえず、必要なときに十分な生理用品を使うことができませんでした。そのことで周囲から「臭い」と言われたり、いじめを受けたりした経験もあります。当時は、自分が置かれている環境が普通ではないことも分からず、誰かに助けを求めることもできませんでした。(10代後半・女性)
- 車もなく、病院までの移動が大変。お金を多く使うし、バスも頻繁にある訳ではないから、病院行くだけで一日が終わる。保険証使うと、親に分かるので、お前には必要ない、自意識過剰だ気のせいだ思い込みだと言われて、死にたい。(20代前半・女性)